

# CNA Report Japan

Conferencing News & Analysis-- Independent & Unbiased Perspective Since December, 1999

電話会議・テレビ会議・Web 会議専門ニュースレター 展示会レポート 2003 年 9 月

創刊 1999 年 12 月 8 日 発行/編集: 橋本啓介 k@cna.jp Copyright 2003 Kay Office All rights reserved.

## 展示会レポート

### DVComm China 2003

2003 年 9 月 25 日 - 27 日 北京中国国際展覽センター



#### DVComm China 会場(手前から、クレストロン、ソニー、VTEL ブース)

前回の CAN レポートで報告したとおり、9 月 22 日、23 日に台北の Computex に参加し、その後 9 月 25 日から 27 日に北京で開催された DVComm China に参加した。

北京へは、24 日朝台北を出国し成田に戻り、一時帰国し 4 時間ほど待って北京行きの飛行機へ乗り、北京のホテルには午後 11 時頃到着。ホテルは、会場である中国国際展覽中心からタクシーで 10 分ほどのところ(料金 13 元)に泊まり、会場へはタクシーで通った。

北京の道路はすごい。渋滞などもすごい、もたもた運転していると後ろからクラクションをビービー鳴らされるし、ほとんどお互いにクラクションの鳴らしあい、割り込みはどんどんあるし、ぶつかりそうな目に何回もあった、車線変更でも方向指示器は出さず、日本人の感覚からみるとめちゃくちゃな運転が横行している北京。また、気を付けないとタクシーを降りるときにおつりをくれないそぶりをする一部悪質なタクシーもあつたり、メーターや、ドライバー資格証書をあまりみえないところに置いたりするドライバーがいたので北京に行く際には注意された方がいいと思う。英語、日本語はほとん

ど通じないと思った方がいい。

#### DVComm China 出展社数約 40 社、世界最大のテレビ会議展示会

今回北京に訪問した理由は、中国で、アジアで、世界でといっても過言ではない世界最大のテレビ会議展示会に参加するためだった。当初は、台北の Computex に参加するだけで帰国しようと思ったが、DVComm China のホームページをみてほぼ直感的にこれは見ておかなければならないと思い、出発数日前に旅程の変更をして台北、北京の 8 日間の視察になった。

DVComm China は、展示出展社数で約 40 社弱ほど出展していたが、今 20 年強の歴史を持つアメリカの Telecon が無くなった今、これだけの社数を集めたテレビ会議に特化した専門展示会は、今のところ、この DVComm China しかない。

アメリカには、コンファレンス関連のリサーチ会社であるウエインハウス社が今年開催する Conferencing4Business があるが 28 社で、9 月 23 日、24 日に開催された Conferencing4Business 北京が 27 社、来月英ロックメディア社がイギリス ロンドンで開催する WAVE の展示会・セミナーでは、10 月 15 日現在、23 社が出展する予定といったところから、今のところは世界最大の展示会といっても間違いはない。

DVComm China が開催されるようになったも、ポリコムやタンバーク、ソニーなどの強豪の中、コンファレンス市場へ中国のメーカーが、MCU やゲートウエイなどインフラストラクチャーコンポーネント関連製品を多数開発製造し、参入しているという背景があるからであると思われる。

DVComm China は、40 社ほどが出展していたが、ポリコム、タンバーク、ソニー、VTEL、WINNOV、クレストロン、ACT テレコンファレンシング、FVC、リッジウエイ、エゼニア! の販社なども出展していたが、その他は、ほとんどが中国メーカーであった。

ただ、中国メーカーの中で、Huawei や TZE (CNA Report

Japan Vol. 5 No.1 参照)、Radford などは出展していなかった。

来場者は、ある中国人に聞くと、「一般のユーザーが来ているというよりは、業界関係の人が多いのでは。」と言っていた。

各社ブースでは、英語がほんの少ししかできない人が多くて、英語と漢字を駆使しての筆談などで何とかコミュニケーションができるという感じ(それでも 100%ではない)で、次回来る機会がある場合は、通訳士の必要性を感じた。ただ、どの馬の骨ともわからない変な質問ばかりしてくるリーベン(日本人)に対して、皆さん結構一生懸命、丁寧に説明してくれたのは非常に印象的だった。

どこの出展企業も IP 化を考えた場合、テレビ会議、遠隔監視のアプリケーションは有望なアプリケーションになると見ているようだった。MCU やテレビ会議端末などのメーカーは中国でもあっても、逆に音声会議に特化したメーカーは、「聞いたことがない。」という人が多かった感じ。寧ろこういった音声会議分野については欧米企業、たとえば、クレストロンや、ポリコム、また、販社を中国に持つコンピュネティクスなどぐらいで、数はテレビ会議メーカーに比べ少ないようだ。

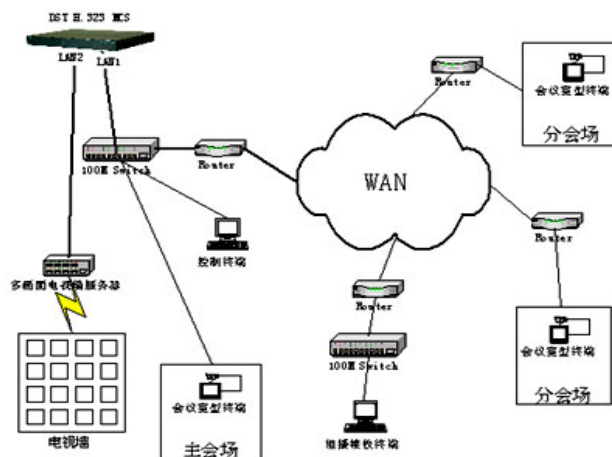
**北京鼎視通軟件技術有限公司(Beijing DST)**

北京鼎視通軟件技術有限公司(Beijing DST Software Technology)は、2001年2月に設立されたブロードバンドマルチメディア通信関連のソリューションを提供する会社で、ISO90001:2000 を取得。ブースでは、同社の IP 向けテレビ会議 MCU(多地点接続装置)DST H.323MCS(写真下)、小型 MCU「Asteroid」、MCU の管理ソフトである DST Manager



CNA Report Japan 展示会レポート  
BY Keisuke Hashimoto <http://cnar.jp>

Assitant、PC タイプの IP テレビ会議「DST mPoint」、メディアプレーヤー「DST Player」、DST H.323MCS と連動して、マルチ画面に映像表示を可能とする DST TVWall Server などを展示していた。その他の製品としては、ゲートウエー、ゲートキーパーなどさまざまな会議用製品を開発している。MCU はデータ会議の国際標準である T.120 に対応している。



TVWall server システム図



DST mPoint(写真は編集長橋本)

同社の DST H.323MCS の導入先リストをもらったが約 85 の政府機関、警察、病院、中国軍、教育、企業の名前がリストされていて、主に政府機関が多かった。一般企業はまだ少ないようだ。しかし、たとえば、ポリコム端末 130 台と、DST H.323MCS を 13 台一括導入した山西省政府、タンバーク端末 35 台と導入した海南省最高人民法院、あと西安市国

税局、福建省気象庁、またモンゴル通信などポリコム、タンバーク、VCON、VTEL などのテレビ会議端末と組み合わせ納入している。

また、同社によると、中国の MCU 市場では、同社が 40% の市場を持ち、ラドビジョンが 35%、ポリコムが 15%、その他という状況で、同社が中国の MCU 市場をリードしているようだ。

## ポリコム+中国のリセラー中国普天

ポリコムは、同社の音声会議 Soundstation から、Viewstation、MGC-50(多地点接続装置)、iPower などの展示デモを行っていた。お話をしたのは、中国でのポリコムのメジャーなリセラーである中国普天(China Putian)のシニア・インダストリーマネージャー超初秋氏と話をした。

ポリコムの製品概要については、ご存じの方も多いと推察するのでここでは割愛するが(このレポートは中国メーカー等をレポートするのが目的なので)、中国普天は、



## ポリコムブース

MGC-50 などと連携して、マルチ画面に複数拠点の映像を表示する装置「PT-TVWS」を開発している。製品自体は展示されていなかったが、ポリコムの製品と連携したソリューションとして顧客企業等へ提案しているようだ。ただ、前述の北京鼎視通軟件技術(DST Software)の説明員と同じことを言っていたが、超初秋氏も「中国でのテレビ会議導入は、政府関係が主とのこと。企業ユーザーはこれから。」中国では、専用線など高価なサービス費用を払えるのは政府関連だけで、テレビ会議は、一般企業は、ADSL などを導入し始めたが、一般に高額の花と見られているので一部の外資系

や大企業に限られているようだ。

## 天地阳光通信科技(北京)有限公司(Amplesky)

天地阳光通信科技は、アメリカの企業で昨年中国市場に参入してきた企業で、H.323 ベースの MCU、AMPLESKY VM マルチポイント・コントロール・ユニット(VM2000、VM3000、VM4000)、CLAIREYE VT デスクトップ PC ビデオ会議クライアントソフトウェア、またはゲートキーパーなども開発製造している。



## 手前から VM2000、VM3000、VM4000

VM2000 は、8 ポート、VM3000 は、4-36 ポート対応、VM4000 は、128 ポートまで対応し、小規模会議から大規模会議までさまざまな会議ニーズに対応するという。VM8000 は、ゲートキーパー機能を内蔵する。画像切り替えは、シングルモードに対応しているが、現在のところ多画面分割には対応していないが現在開発中とのこと。(同社ジェイソン・ホワイト氏、中国支社長補佐、アメリカ人。逐次英語ができない中国人スタッフと私が会話する際に、英語と中国語の通訳を行ってくれた。)

天地阳光通信科技のブースでは、同社の MCU とさまざまなテレビ会議端末が相互接続の検証が取れているというのを示すために、ポリコム、タンバーク、ソニー、アエスラなどの製品も一緒に展示していた。ソニーの PCS-1 が展示されていたが、その際に MPEG4 対応の話がでて、天地阳光通



信科技の R&D 部長 Yipeng Nie 氏によると、「弊社の MCU は、MPEG4 には対応している。」そうだ。

**タンバーク**



**タンバークブース**

タンバークのブースでは、タンバーク製品 TANDBERG880 など複数台使って多地点接続のデモを行っていた。タンバークでは、パンフレットに書かれている導入先リストによると、大学など 24 教育関係期間の導入が書かれていた。中国政府機関では、水利局、軍関係などで導入。また、通信運輸関係も 20 弱、その他企業では、銀行、ホテル、保険、航空、米コンピューター企業など 20 企業も書かれていた。

左 : MARS-8000) 同社では、「MARS-8000 シリーズ」、「MARS-6000



シリーズ」、また PC 会議系の「快視通」などを開発している。「MARS-8000 系統(シリーズ)」は、MPEG4 に準拠したテレビ会議システムで、「MARS-8000MCU/GK(多地点接続機能/ゲートキーパー機能)(写真上)」、「MARS-8000BS(テレビ会議端末:前頁写真)」、「MARS-8000USB(PCタイプテレビ会議)」の 3 製品がある。「MARS-8000」は、学校などに導入されているそうだ。

また、「MARS-6000 シリーズ」は、MPEG2 のテレビ会議システムで、現在公安などが導入して高品質の映像での会議を行っているそうだ。「MARS-6000MCU/GK(写真上)」、「MARS-6000BS(テレビ会議端末)」がこのシリーズに入る。

また、「快視通」は、MPEG4 準拠の PC テレビ会議。



**快視通—PC ベース MPEG4 テレビ会議**

同社マーケティングマネージャー倪 亮氏から筆談も交えて説明していただいた。

**武大方略数码科技有限公司(FirstLink)**

1999 年 12 月に会社を設立した武大方略数码科技は、IP テレビ電話から PC タイプのテレビ会議、多地点接続装置、そしてセットトップテレビ会議と幅広く製品を開発製造販売している。また、H.323 テレビ会議を始め、H.320 の ISDN テ



**北京华纬讯电信技术有限公司 (SinoWave Communications)**

北京华纬讯电信技术は、アメリカに留学した社長が創立した会社。テレビ会議に関連の MCU やゲートキーパー、端末などを開発している。(写真

テレビ会議システム、H.324 のアナログ回線向けテレビ会議システムや関連のソフトウェアモジュールも開発している。

次ページ写真のテレビ電話「FL-VIP2000」は、H.323 に準拠し、5 インチ TFT カラーLCD ディスプレーを搭載。映像コーデックは、H.261 と H.263 に対応。音声コーデックは、G.711、G.723.1、G.728。台湾 Leadtek 社の「iSee」と見た目に同型。米 Viseon 社も同型筐体の IP テレビ電話を出している。

PC テレビ会議システムについては、「FL-RockView310」、「FL-RockView320」、「FL-RockView330」、「FL-RockView340」などがあり、H.323 準拠の映像コーデックは、H.261 と H.263 に対応しているが、MPEG4 に対応したものであれば、「FL-RockView310M」、「FL-RockView320M」がある。

セットトップテレビ会議システムについては、「FL-RockStation 5100M」、「FL-RockStation 5600M」、「FL-RockStation 5800M」があるが、H.323 に準拠しているとはいえ、映像コーデックは、MPEG4 ベースになっている。音声コーデックは、G.711、G.723.1、G.728。遠隔カメラ操作 (H.281)、コンファレンスコントロール (H.243) をサポート。ハイエンドタイプのテレビ会議システム。

また、MPEG4 以外に H.261 と H.263 を同時にサポートした、「FL-RockStation 5100D」、「FL-RockStation 5600D」、「FL-RockStation 5800D」などもある。

MCU (多地点接続装置) については、H.323 準拠で、映像コーデックは、H.261、H.263、MPEG4 をサポートした、「FL-LinkMaster8000」がある。T.120 準拠。コンファレンスコントロール機能、マルチコンファレンス機能。4 ポート MCU から 32 ポート MCU まで、2 シリーズ、16 機種 of MCU を揃えている。同社販売担当の項目部氏によると、「32 端末接続時 768kbps 接続が可能。」筐体の見た目は 1U タイプのボックスサイズ。

中国政府、大学、中国軍などに導入実績があるようだ。

### 浙江南望图像信息产业有限公司 (Nanwang Multimedia Technology)

浙江南望图像信息产业は、テレビ会議システムから、テレビ電話、遠隔監視、ビデオ録画、ネットブリッジ、な

どマルチメディア映像、通信関連製品を開発する会社。イスラエルの VCON やオランダのフィリップ社などと協力関係があるようだ。浙江省認定の 10 強に入る情報産業企業の一つと言われ、北京市公安局や杭州市電力局なども同社のシステムを利用しているようだ。

同社では、NH600 テレビ会議シリーズとして、「大型会議端末」、「小型会議端末」、「移動型



### デスクトップ型会議端末

端末 A)、「移動型会議端末 B)」、「デスクトップ型会議端末」、「IP テレビ電話 NVP100」がある。「NVP100」以外は、映像コーデックは、MPEG2、MPEG4、H.263 に対応しているようだ。

ちなみに、同社の華北区担当セールスマネージャー 占文金氏によると、「NVP100」の価格は、800USD 程 (約 87,700 円)。また、MPEG2 コーデック製品は、4000USD (約 43 万 8 千円)

また、監視系ソリューションも開発している。

### 北京中讯群通科技股份有限公司 (CTC)

北京中讯群通科技では、エンタープライズ企業向け IP 向け多地点接続装置 (MCS3000) と通信事業者向け IP 多地点接続装置 (MCS6000)、また、デスクトップ PC タイプテレビ会議「EasyCall 1000」を製造販売している。ISO9000 を取得したようだ。

「MCS3000」は、H.323 (映像コーデック:H.261、H.263、音声コーデック:G.711、G.722、G.723.1、G.728、G.729) と T.120 (データ会議) をサポートしており、128kbps では、64 端末、3Mbps では、15 端末までサポートしている。画面表示

については、シングルモードだけでなく、4 多画面分割なども対応している。

8 ポートと 16 ポート対応簡素化した専門版と、ポート容量を増大させた増強版もある。

「MCS6000」は、単体 MCU で最大 200 端末接続までサポートする。

「EasyCall 1000」は、PC 用テレビ会議システム。H.323 に準拠し、映像コーデックは、H.261、音声コーデックは、G.711 をサポート。

同社の多地点接続装置と、VCON、タンバークなどのテレビ会議システムを組み合わせた導入実績があるようだ。

### 北京威速科技有限公司 (V2 Technology)

北京威速科技は、1999 年に設立された、インターネットリアルタイム通信向けのソフトウェアを開発する会社。同社では、ウェブテレビ会議システム「V2 Conference」、ストリーミングサーバー「V2 Media System」、また、インスタントメッセージングの「V2 Communicator」、ボイス Eメールの「V2 VoiceMail」などを開発している。



V2 Conference 画面

### 北京泰利恒通科技发展有限公司

北京泰利恒通科技发展有限公司は、VTEL のリセラーでもあり、また、MPEG2、H.323 対応テレビ会議システム FOCUS シリーズを開発した迪威視訊技术有限公司のリセラーでもある。テレビ会議だけでなく、電話会議用多地点接続装置等も販売している。

迪威視訊技术有限公司は、MPEG2 のテレビ会議システム「FOCUS3000」と「FOCUS8000」、また、MPEG1 と MPEG2 も同時にサポートした H.323 の多地点接続装置「FOCUS 6000」(8 ポートから 32 ポートまで対応)、テレビ会議端末(アタッチケースタイプ)「FOCUS2000/2100」などを開発。映像コーデックは、H.261 と H.263 をサポート。

電話会議用多地点接続装置としては、「Multicall2000」、IP 電話用「Multicall2000IP」などがある。

### 上海汉唐科技有限公司 (OSOONMEDIA)

上海汉唐科技では、テレビ会議、テレビ電話、遠隔教育向け、からビデオリコーダー、MPEG4 監視サーバーなど映像系の製品を販売している。テレビ会議製品では、MPEG4 対応、音声コーデックは、GSM6.10 (欧米などで携帯電話の標準符号化方式として使われているプロトコル)、また暗号化 (DES128) にも対応している。

セットトップタイプのテレビ電話もあり、H.323 と SIP に対応。音声コーデックは、G.711 と G.723 をサポート。また、通常のテレビ電話であれば、アナログ回線対応 (H.324) と IP 回線 (H.323) に対応した製品も扱っている。これらの製品は、台湾の Leadtek 社の「iSee」と同じ筐体。

### ソニー

ソニーは、同社の新テレビ会議システム「PCS-1」を展示していた。ポリコム、タンバークと同様製品概要 (PCS-1 のニュース記事:CNA Report Japan Vol.5 Nov.9 参照) についてはここでは割愛するが、日本国内では「PCS-1」であるが、外国では「PCS-1P」と最後に「P」が付くようだ。ソニーブースでは、「PCS-1P」と、オプションのドキュメントカメラ、ホワイトボードレコーダー「mimio Xi」などが展示されていた。

「PCS-1」は、リリース以来需要が高く生産が間に合わない (CNA Report Japan Vol.5 Nov.12 参照) そうだ。2003 年 9 月 6 日の日本経済新聞朝刊に、同社のテレビ会議の増産のニュースが報じられている。



## VTEL

VTEL はアメリカの主要テレビ会議メーカーで、数年前まで日本事務所があったが、最近はなくなり、日本ではあまり聞かれないメーカーになりつつあるが、中国では結構注目されているメーカー。最近では、中国国家林業省に、38 台の導入を行っている。(CNA Report Japan Vol.5 Nov.15 参照)展示会のブースも会場入口近くに大きく構えていた。

VTEL は同社の Galaxy シリーズの、「Model725」や、カメラ部が 2 台付いた Model5500/2500 などが展示されていた。また、VTEL は、多地点接続装置である、「Smartlink 1000&2000 コンファレンス・サーバー」や、テレビ会議ネットワーク管理系の「Smartvideonet マネージャー2.0」などもある。



VTEL ブース

## まとめ

中国のテレビ会議などのコンファレンス市場は、日本市場を近いうちに追い越すという見方が一般的。中国では一般的に音声会議よりもテレビ会議の方が関心が高いと聞いたが、一部の中国人によると、政府や大企業などはテレビ会議に手が届くが、一般の企業からすると高嶺の花。そうした場合、音声会議を選択する企業も少なくないという。

いずれにしても各メーカーの業績発表を見ても、アジアの事業が急速に拡大しているところが多いが、中国がアジア全体を引っ張っているという感じが強いと思う。展示会に

入って行って、まず思ったのは、「こんなにあるのか!」という単純な驚きであった。

今回実際に中国を訪れ、この目と耳と体と皮膚とで体感してきたが、沢山の中国メーカーが市場に参入してきているということ、そこで働く人達の熱意を見ると、中国がアジア全体を引っ張っているというのはあながち間違いではないという実感がした。

確かにまだまだ政府機関や文教、病院などが多く、一般企業はこれからという感じかもしれないが、今後中国の GDP が拡大し、中国企業がますます力を付けてくれば、世界一最大のアメリカ市場も凌駕するくらいに市場が拡大していく可能性は否定出来ないと思う。

中国のユーザーは、機器選択上、外国企業のものから、中国地元の企業のものまでさまざまな製品が選択できる。関税率が 35%程度(2002 年 12 月に現地の人に聞いた情報に基づく)と高いとはいえ、ビジネスのやり方が難しいとはいえ、市場のポテンシャルからビジネスにとって非常に魅力のある市場である。

さまざまな製品が投入されている市場であるので、競争は激しいが、ユーザーの目も肥えるし、製品も洗練されてくることを考えると、近い将来中国からメジャーなメーカーが出てくるのは間違いないのではないかなと思う。

(DVComm China リポート終わり)

CNA Report Japan(シーエヌイー・リポート)

編集長 橋本 啓介 [k@cna.jp](mailto:k@cna.jp)

(CNA Report 展示会リポート 2003 年 9 月)